

# 東京1区市民連合 会報 No.13 (部内資料)

〒169-0073 新宿区百人町 1-25-7

Tel・Fax03-5577-7680

メールアドレス: [1kushimin@gmail.com](mailto:1kushimin@gmail.com)ツイッター: <https://twitter.com/1kushiminrengo>

## 野党共闘で自公政治に終止符を! 東京1区市民連合結成3周年記念集会を開催



2月21日、エデュカス東京7階ホールで東京1区市民連合結成3周年記念集会が136名の参加を得て開催されました。櫻井幸子共同代表(婦人民主クラブ会長)の開会あいさつで始まり、立憲民主党衆議院議員海江田万里氏が国会報告を、記念講演を小林節慶応義塾大学名誉教授が行い、港、千代田、新宿の立憲野党議員の紹介と発言がありました。今年は選挙の年、準備態勢を作りたいものです。(文責・事務局)

### 鯛は頭から腐る—海江田議員

国会から駆け付けた江田議員は「安倍政権によりこの国は4年前の戦争法で立憲主義を捨て、東京高検検事長の定年延長問題では法治主義を捨てた。検察庁法で、検察官の定年を63歳と定めていながら、政権寄りという黒川高検検事長が2

月に定年を迎え、検事総長になれないからと、国家公務員法の規定を持ち出して定年延長するという法解釈の変更を閣議決定した」

「国会で決めた法がどう運用されるか、政府次第となれば法治国家とは言えない。法務省や人事院の答弁が二転三転しているが、モリ・カケ問題



小林節名誉教授と海江田議員(右)

から安倍首相への付度が続き『鯛は頭から腐る』という言葉どおりになっている。その中で安倍首相は戦争するための改憲に道

をひらく国民投票を行おうとしている。宣伝活動に制限がない国民投票は大変危険だ。戦争させないという声を広げて、安倍政権を倒すために奮闘する」——と語りました。

### 政策協定が大事—小林節名誉教授

次に小林節名誉教授は「立憲主義の回復をめざして—政治の機能を取り戻そう」というテーマで概略以下の講演を行いました。



安倍首相は「憲法とは国の形を決めるもの」と語っているが全く違う。憲法は国の形を「権力者に守らせるもの」だ。「戦争できない国であることの大切さ」は憲法9条の条項に現れている。

第1項の「国際紛争の解決する手段としての戦争の放棄」は1928年のパリ条約でつくられた。しかし、それでも第二次大戦は起きてしまった。パリ条約後も独仏は「自衛戦争はできる」と解釈し、日本も「満州は日本の生命線」と言いながら「自衛」の侵略戦争を行った。その反省から生まれた第2項はユニークだ。

「軍隊を持たない」のだから自衛戦争をしようとしてもできない。「交戦権」がないのだから自衛隊が海外で銃を撃ったらテロ行為になる。こんな存在である自衛隊を海外に送っている安倍政権は本当に無責任だ。

いま、安倍政権は小選挙区制度によって25%の民意で75%の議席を掌握してやりたい放題の政治をしているが、野党がまとまれば現行の選挙制度でも立場が逆転する可能性はある。自民党が野党共闘を「野合」と批判するが、改憲を綱領に掲

げる自民党と「平和と福祉の党」と说っていた公明党の連立政権こそ「野合」ではないか。

国民から期待される政策協定を掲げて互惠主義で野党共闘を拓けて政権交代をすることが政治健全化の特効薬である。



講演のなかで海江田議員と小林名誉教授が大学時代の同期ということが紹介され、学生時代の思い出も語られ会場を沸かせました。

つづいて港・千代田・新宿の各区の立憲野党議員が発言。各区の特徴的な取り組みなどが紹介されました。最後に司会を務めた大西広事務局長が行動提起（活動カンパ・賛同人拡大・共同行動参加）と閉会あいさつを行い、終了しました。

\*\*\*\*\*



港区議のみなさん



千代田区議のみなさん



新宿区議のみなさん